

登録コード	E4681900	開講年度	2026				
授業科目	中等家庭科指導法基礎					担当教員	
英文授業名	Teaching Methods of Home Economics Education II					副担当	山岸 明浩
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生	2年生
講義室	教育W503講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	該当	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				中高家庭科の指導者として生徒の到達目標を理解し、倫理観に根差した授業づくりができる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				中高家庭科の指導者として生徒の到達目標を理解し、授業づくりができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業は、授業づくりの基礎を踏まえ、家庭科における教材研究および指導法の応用的理解を深めることを目的とする。 家族・家庭生活，衣食住の生活，消費生活・環境といった家庭科の各内容について，現代的課題を取り上げながら，指導内容の深化と構成方法を検討する。 授業の前半では，教材研究の視点や指導案の検討を通して，家庭科の学習内容をどのように発展的に扱うかを理解する。後半では，模擬授業を実施し，教材の提示方法，板書・ICTの活用，学習者理解を踏まえた指導の工夫について実践的に学ぶ。 本授業を通して，家庭科教師として求められる教材解釈力，指導構想力および授業改善の視点を身につけ，学校現場において家庭科の学びを適切に展開する基礎的力の形成を図る。						
(5)授業計画	第1回：オリエンテーション／模擬授業グループ分け・内容決定【遠隔等：教室W503】 第2回：教材研究の視点／ケアとは何か【遠隔等：教室W503】 第3回：家族・家庭生活の発展 - 性の多様性 - 【遠隔等：教室W503】 第4回：指導案共有と選定【遠隔等：教室W503】 第5回：衣食住の生活の応用 - 防災とフェーズフリー【遠隔等：教室W503】 第6回：スライド・板書計画の共有と洗練【遠隔等：教室W503】 第7回：消費生活・環境の発展 - 温暖化とカーボンニュートラルー【遠隔等：教室W503】 第8回：教材準備の共有と最終調整【遠隔等：教室W503】 第9回：模擬授業 家族・家庭生活【集中講義・対面12/12：教室W503】 第10回：模擬授業 衣食住の生活【集中講義・対面12/12：教室W503】 第11回：模擬授業 消費生活・環境【集中講義・対面12/12：教室W503】 第12回：模擬授業 現代的諸課題に対応した内容【集中講義・対面12/13：教室W503】 第13回：模擬授業 横断的な内容【集中講義・対面12/13：教室W503】 第14回：試験【集中講義・対面12/13：教室W503】 第15回：まとめ【遠隔等：教室W503】 授業日程については，eALPSに掲載しますので見落とさないようにして下さい。						
(6)成績評価の方法	毎回の授業における内容理解および主体的な学習態度について，授業後に行う自己評価の記述内容をもとに評価する。（15％） 模擬授業の準備・実施・振り返りを通して示された教材研究の深まりや指導案作成に対する取り組みの状況について，提出物および授業内での様子をもとに総合的に評価する。（15％） 講義内容全体についての理解を，定期試験（筆記）により評価する。（70％）						
(7)成績評価の基準	自己評価の記述および筆記試験については，講義で示した内容を理解し，家庭科教育法 で扱った内容に基づいて適切な記述や解答ができていれば，水準に到達していると評価する。 講義内容を踏まえて自らの考えを整理し，教材研究や授業づくりに結び付けた記述や応用的な解答ができていれば，水準よりやや上に到達していると評価する。 さらに，模擬授業や指導案作成の経験を踏まえ，家庭科教育の意義や現代的課題との関連を意識した発展的な記述や解答ができていれば，水準よりかなり上に到達していると評価する。 模擬授業および指導案作成については，授業で示した基本的な観点を踏まえて準備・実施・振り返りが行われていれば，水準に到達していると評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	各回の授業内容に関連する教科書および配付資料について，事前に該当箇所を確認した上で授業に臨むこと。あわせて，扱う内容が教科書のどの部分を発展させたものかを意識しておくこと。 授業後は，講義内容や演習・模擬授業を振り返り，家庭科教育の視点から教材の工夫点や指導上の課題						

(8)事前事後学習の内容	について整理すること。 特に、模擬授業に関しては、教材研究の成果を踏まえた授業計画（略案・細案）の作成および改善を通して、教科書を基盤としつつ生徒の実態や現代的課題に対応した授業づくりへの理解を深めること。 必要に応じて、授業内で提示する問いや話題について簡単なメモや下書きを行い、グループでの協議や質疑応答に主体的に参加すること。
(9)履修上の注意	本授業は、講義・演習・模擬授業を組み合わせで行うため、各回の内容は相互に関連している。特に後半の模擬授業や指導案作成に向けて、前半の講義内容を踏まえた継続的な学習が求められるため、原則として全回出席すること。 模擬授業や演習では、受講生同士の協働や意見交換を重視する。そのため、事前課題の提出や準備物の用意など、各自が責任をもって授業に参加すること。 また、本授業は非常勤講師が担当するため、授業時間外での個別対応には限りがある。質問や相談がある場合は、授業内の質疑応答の時間や指定された方法を活用すること。 遠隔授業等（オンライン授業）は、指定教室（W503）で実施します。 やむを得ない事情により欠席・遅刻をする場合は、事前または事後に速やかに連絡し、配付資料や課題内容を各自で確認すること。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談は、学部窓口教員を通して随時受け付ける。 （学部窓口教員：山岸明浩 yamaaki@shinshu-u.ac.jp）
【教科書】	日本家庭科教育学会編(2025)「家庭科教育ハンドブック」丸善出版
【参考文献】	平成29年3月 文部科学省告示 中学校学習指導要領 平成29年3月 文部科学省告示 高等学校学習指導要領